2021 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第6戦
スーパーバイクレース in 岡山

岡山県・岡山国際サーキット（1周=3.747km）
2021年9月4日（土） 公式予選 天候：曇り コース：ドライ
9月5日（日） 決勝 天候：晴れ・曇り コース：ドライ

JSB1000	2	■清成龍一	予選：2番手（タイム：1分31秒497）	決勝：2位
ST1000	37	■渡辺一馬	予選：3番手（タイム：1分34秒216）	決勝：3位
ST1000	3	■作本輝介	予選：P. P.（タイム：1分33秒632）	決勝：優勝

作本輝介がポールtoウインで今季2勝目！ 渡辺一馬も3位に入賞!! 清成龍一も復調の2位!!!

全日本ロードレース選手権シリーズも、今回の岡山ラウンドを含め残り2戦。今シーズンは、例年なら11月に最終戦として開催されているMFJグランプリが7月にあったため、9月18日（土）19日（日）いよいよシーズン大詰めに入ってきた。

ST1000クラスのポイントリーダーで迎えた渡辺一馬は、シリーズチャンピオンを今回決める可能性もあったが、事前公開テストから、着々とセットアップを進めていた。一方、第5戦鈴鹿でトップを走りながら他車に接触され転倒リタイアとなってしまった作本輝介は、鈴鹿からの好調をキープ。公開テストからトップタイムをマークし、レースウイークに入っても安定した速さを見せていた。

JSB1000クラスの清成龍一も、事前テストから復調の兆しを感じさせていた。走り始めとなった金曜日は、ウエットコンディションとなったが清成はトップタイムをマーク。土曜日の公式予選でも自己ベストを更新する走りを見せ予選2番手グリッドを確保していた。

一方、ST1000の作本は絶好調！ 予選では、セッション終盤にアタックに入ると、計測最終周にベストタイムをマークするとリーダーボードのトップに立ち、ST1000クラスで初ポールポジションを獲得する。渡辺も3番手に入り、Astemo Honda Dream SI Racingの2台がフロントロウに並ぶ予選結果となった。

日曜日は朝から快晴となり、ウォームアップ走行でも作本が、ただ一人1分33秒台に入れトップ。渡辺は、自身の予選タイムを上回る1分34秒016で2番手と1-2を占めていた。

18周で争われたST1000クラスの決勝。作本は、ポールポジションから好スタートを切り、ホールショットを奪うとオープニングラップから積極的にペースを上げ2番手以降を引き離していく。一方、渡辺は、スタートから新シケインまでで出遅れてしまいオープニングラップを5番手で終えていた。

YUTAKA MOTUL HYOD F.C.C. NGK SPARK PLUGS RK TAKASAGO CHAIN ENDURANCE RACING XAM Microlon MAC TOOLS

作本は、2周目から1分33秒台に入れ、3周目には、このレースのファステストラップとなる1分33秒222をマーク。その後もコンスタントに1分33秒台で周回し、アッという間に独走態勢を築いていく。

渡辺は、なかなか前をいくライダーをかわせずにいたが、7周目のバックストレートエンドで1台かわし4番手に上がると、さらに前の2番手争いを追っていく。

作本は、2位に9秒292もの大差をつける圧倒的な速さを見せつけトップでゴール。今シーズン2勝目を挙げた。渡辺は、残り2周のところで前を走っていたライダーが転倒。ポジションを一つ上げ、3位表彰台を獲得した。

JSB1000クラスの清成も、ホールショットを奪いトップを快走。迫り来るヤマハファクトリーの中須賀選手を抑え6周抑えたが、7周目にかわされてしまう。その後も意地を見せ、何とかついていくがジリジリと離されてしまい単独2位でゴール。悔しい結果となったが、清成本来の走りが戻って来たことを伺わせるレースとなった。

ST1000クラスのタイトル争いは、Astemo Honda Dream SI Racingの渡辺一馬と作本輝介の2人に絞られることになった。最終戦オートポリスでシリーズチャンピオンに輝くのは、渡辺か!?　作本か!?

清成 龍一 コメント

「先週の公開テストからバイクのフィーリングがよくなって来て、金曜日のウエットコンディションでも、すごくいい感じでした。予選でドライになっても、少しアジャストするくらいで、いい調子をキープできていましたが、アベレージタイムを思うように上げることができていませんでした。何とか1分31秒台後半で走りたいとブレーキにしろ、全て使い切ってベストを尽くしましたが、全く及ばず悔しいレースになってしまいました。次戦は、早くも最終戦オートポリスになります。第2の故郷とも言える場所なので、いいレースをお見せできるように頑張ります」

渡辺 一馬 コメント

「公開テストからレースウイークの流れは、決して悪くなかったです。金曜のウエットコンディションでもフィーリングはよかったですし、アベレージもよかったので順調に来ていましたが、スタートから新シケインまでで出遅れてしまったのが大きかったですね。最後に（他のライダーの）ミスに助けられた形ですけれど、表彰台に上がることができたのは、チームのおかげです。最終戦オートポリスも優勝できるポテンシャルを持っているチームを信じて、自分自身の全力の走りができるように精一杯走るだけです」

作本 輝介 コメント

「前戦は悔しいレースになってしまったので、払拭するためにも勝つことしか考えていませんでした。公開テストから、チームのおかげで、いいフィーリングで走ることができていましたし、レースは、とにかくスタートを決めて後続との差を広げていこうと思っていたので、その通りの展開に持ち込めたので、よかったですし、安定したペースで走ることができたのもチームのおかげなので感謝しています。最終戦オートポリスは、ホームコースなので、この調子で勝って締めくくりたいですね」

チーム監督：伊藤 真一 コメント

「今回も多くのご支援ありがとうございました。岡山ラウンドは、考え得る最高の結果に近いものになったと思います。作本は、ここに来て調子を上げ、波に乗ってくれました。渡辺もタイトルへのプレッシャーのかかる中、やや緊張していましたが、表彰台に上がってくれました。この結果、ST1000クラスは、シリーズランキング1-2が決まり、最終戦はチーム内でのチャンピオン争いとなりますが、2人とも思いっきり走れるようにチームとしてバックアップして臨みます。JSB1000の清成は、ようやく復調してきましたがライバルの壁は、高かったですね。その壁を破り優勝できるように最終戦は、チーム一丸となって挑みます」

次戦、第7戦オートポリスは、9月18日（土）19日（日）に行われます。

SIR エスアイレーシング
YUTAKA MOTUL HYOD F.C.C. NGK SPARK PLUGS RK TAKASAGO CHAIN ENDURANCE RACING XAM Microlon MAC TOOLS